

わたしのお母さん

小 二

わたしには、大すきなお母さんがいます。お母さんは、いつもえ顔で、わたしの話を聞いてくれたり、べん強を教えてくださいたりします。どんなそうだんにものつてくれるやさしいお母さんです。

そんなわたしのお母さんは、わたしが生まれる前から、毎日、車いすで生活をしてきました。なぜ、車いすで生活をしてきた

かと言うと、しごとに行くとき、交通じこにあつて、歩くことや立つことができなくなつてしまつたからです。足だけではなく、手も力が入らないし、あまりよくうごきません。それでも、わたしのお母さんは、毎日、いろいろなことにがんばつていきます。

たとえば、力の入らない手で、わたしのよごれたくつ下をきれいにあらつてくれます。家ぞくのために、おいしいりょう理も作つてくれます。お母さんが作つてくれたグラタンやから

あげは、とつてもおいしいです。そうじの時は、かた手で車いすをこぎながら、モップをかけたリ、たなをふいたりしています。パソコンをつかって本を書いたり、お母さんの体けんをたくさんの人に話したりするしごともしています。

そんなお母さんを見ていると、わたしも、しぜんに、お母さんみたいにがんばろうと思います。

今、わたしが一番がんばっていることは、かん字の書きとりと計算とお手つだいです。どれ

も、おぼえることがたくさんあるけれど、新しいことを自分でできるようにしていきたいと思っています。それはなぜかと言うと、わたしは、お母さんにもまけないくらい自しんのもてることをふやしていきたいからです。

今、わたしは、夕ごはんを作る時には、いつしよに玉ねぎのかわをむいたり、おさらをならべたりしています。家ぞくで出かけた時には、お母さんの車いすをおしています。おじいちゃん、おばあちゃん、お父さんが

いない時には、おふろそうじを
したり、お母さんの手がとどか
ないものをとったりします。す
ると、お母さんは、いつも、
「ありがとう」

と言つて、とてもよろこんでく
れます。わたしは、お母さんの
そんなえ顔が大すきです。

今は、まだ、わたしよりも、
車いすで生活しているお母さ
んのほうが、上手にできること
ばかりです。でも、少しずつ、
お母さんを見ならつて、できる
ことをふやしていききたいです。
また、これからは、町でこまっ

ている人がいたら、声をかけて
たすけたいです。そうしたら、
お母さんと同じようにえ顔で
よろこぶ人がたくさんになる
と思うからです。そして、たく
さんの人たちのえ顔であふれ
る毎日になるようにしていき
たいです。

